

<スタッフ紹介>

役 職	スタッフ名
部門長兼血液浄化副センター長 兼臨床研修指導者 兼臨床工学・技術副センター長 兼泉州南部卒後臨床シミュレーションセンター 参事兼部門長代理	荒川 昌洋
主 幹	中西 潤
主 幹	中谷 暁洋
主 査	岩本 匡史
主 査	町田 麻実
主 査	為廣 理沙子
主 査	中平 大志
主 査	吉田 光海
主 査	金口 優生
主 査	森田 庸介
他スタッフ	15名

<特色と概要>

「臨床工学技士」は、1988年に臨床工学技士法が施行され、厚生労働大臣の免許を受けて医師の指示のもとに、心臓手術中の人工心肺や心臓補助装置、人工呼吸器、人工透析装置を含む血液浄化装置などの「生命維持管理装置」の操作・保守管理を行う医療スタッフとなった。

2021年には臨床工学技士法の改正が行われ、生命維持管理装置の操作に加え、生命維持管理装置を用いた治療に関連する医療用装置(生命維持管理装置を除く)の操作が追加された。時代の変遷とともに業務範囲が拡大されている。

当センターでも、臨床工学技士はタスクシフト/シェアに力を注いでいる。現在、当センターには臨床工学技士が25名所属している。

<<認定資格など取得状況>>

(人)

認定資格	取得者数
体外循環技術認定士	5
不整脈治療専門臨床工学技士	2
ペースメーカー/ICD関連情報担当者(CDR)認定	2
植込み型心臓デバイス認定士	3
心血管インターベンション技士(ITE)認定	8
日本不整脈心電学会・心電図検定1級	4
日本不整脈心電学会・心電図検定2級	3
透析技術認定士	8
認定血液浄化臨床工学技士	4
血液浄化関連専門臨床工学技士	1
腎代替療法専門指導士	1
3学会合同呼吸療法認定士	8
認定集中治療関連臨床工学技士	5
呼吸治療専門臨床工学技士	2
CPAP療法士	4
臨床ME専門認定士	4
認定医療機器管理臨床工学技士	2
医療機器情報コミュニケータ(MDIC)認定	1
認定臨床実習指導者	2
日本DMAT隊員	3
ICLSインストラクター	2
MCLSインストラクター	1
PC3インストラクター	1

<実績>

当部門における2024年4月1日から2025年3月31日までの業務実績を以下に示す。

<<呼吸関連業務>>

(件)

項 目	件数
院内ラウンド	142回
【RCT(Respiratory Care Team)】	
患者依頼件数	30
人工呼吸器離脱件数	12
【睡眠時無呼吸治療関連】	
簡易PSG(Portable Monitor)	75
終夜睡眠ポリグラフィ(PSG)	67
CPAP導入	40
CPAPドロップアウト件数	3
CPAP転院	6
ASV導入	0
HOT導入	3

<<循環関連業務>>

(件)

項 目	件数
全体外循環症例	80
MICS:低侵襲心臓手術	24
緊急・準緊急症例	21
(通常体外循環法)	59
(脳分離体外循環法)	15
(超低体温循環停止法)	20
(部分体外循環停止法)	1
Off pump CABG	15
EVAR	5
TEVAR	3
回収式自己血輸血(心臓血管外科)	21
TAVI	2

項 目	件数
ECMO	43
(VA ECMO)	25
(VAV ECMO)	8
(VV ECMO)	16
IABP	15
IMPELLA	19

項 目	件数
心臓カテーテル検査	640
(緊急症例)	182
PCI	311
EVT	70
EPS	20
カテーテルアブレーション	235

項 目	件数
ペースメーカー植込み術	36
ペースメーカー交換術	22
リードレスペースメーカー留置術	16
ICD植込み術	1
ICD交換術	6
S-ICD植込み術	1
S-ICD交換術	0
CRT植込み術	4
CRT交換術	7
植込み型ループ心電計	29
CIEDs症例のMRI撮像対応	27
遠隔ホームモニタリング導入	112
デバイスチェック業務(遠隔データ解析を含む)	5,217

《代謝関連業務》

(件)

項目	件数
血液浄化センターHD	1,955
ICU/EICU血液浄化	1,431
血漿交換(PE)	15
LDL(Low density lipoprotein)	0
CART(Cell-free and Concentrated Ascites Reinfusion Therapy)	4
PTA(Percutaneous Transluminal Angioplasty)	323
Shunt Map 作成	82
CAR-T(Chimeric Antigen Receptor T-cell)	4
PBSCH	13
骨髄濃縮	2
DHP(Direct hemoperfusion)	25

《その他機器、手術関連業務》

(件)

項目	件数
新規登録機器	211
医療機器修理点検依頼件数	1,434
ロボット手術件数	114
泌尿器科レーザー装置使用手術	138
整形外科自己血回収装置使用手術	21
急速輸液加温装置使用件数	38
経皮的体温調整装置使用件数	44

《今年度の反省と来年度への抱負》

呼吸関連業務では、睡眠時無呼吸の検査である終夜睡眠ポリグラフィーが、一昨年度22件、昨年度37件、今年度は67件と大幅に増加していく傾向であった。CEの院内ラウンド回数が107回から142回と増加させることができ、医療安全に寄与できたと考える。その他は概ね前年通りであった。

循環関連業務では、心臓カテーテルの件数が、昨年度は421件と減少したが、今年度は640件と増加した。カテーテルアブレーションについては、一昨年125件、昨年度196件から、今年度は235件と増加傾向が継続していた。ペースメーカーの植え込みなどは例年と同程度であった。植え込み型心臓デバイスの遠隔モニタリングなどのデバイスチェック件数は、昨年度と同様5,000件以上となった。

代謝関連では、血液浄化センターでのHD(血液透析)件数が260件減少したが、集中治療領域での血液浄化が260件増加し、この両者を合わせると同数であった。血漿交換13件の増加であった。CAR-Tを新たに行うようになり、4件実施した。シャントPTAは増加傾向が継続していた。それに伴い、シャントマップの作成件数も増加した。DHPが増加したのは、新たに閉塞性動脈硬化症の治療を開始したためであった。

手術関連業務では、ロボット手術の立ち会いを昨年度から開始したが、今年度は114件と飛躍した。今年度より念願であったTAVIが開始され、CEも手術に協力した。泌尿器科レーザー手術については、昨年度と同等であった。今年度も昨年度から引き続き、手術関連の業務に力を注ぐ一年であった。

医療機器修理点検依頼数が、昨年度736件から1,434件と倍増した。シリンジポンプ・輸液ポンプを臨床使用ごとに点検を実施した結果、点検件数の増加となった。総括として、循環器関連業務についてはカテーテルアブレーション業務が増加している。デバイスチェック関連業務についても年々増加傾向である。他方、シャントPTAに関しては、透析患者数が増加から減少に転じている中でPTA件数が増加していることから、当院への紹介割合が増えているのではないかと推察できる。一方、呼吸ラウンドは増加させたが、目標の200件には届いていない。医療安全の意識を高め、増やしていく必要がある。また、医療機器管理業務については、シリンジポンプ・輸液ポンプに加え、経腸ポンプ・体外式ペースメーカーの中央管理化を行ったが、他の医療機器においてもさらに進めていく。手術関連については、ハイブリッド手術室の運用が開始され、新たにTAVIを行うようになり、来年度の業務展開に力を注ぎたい。